

# ISAAC(International Study of Asthma and Allergies in Childhood)第 I 相試験における

## 小児アレルギー疾患の有症率

出典 日本小児アレルギー学会誌 (0914-2649) 16 巻 3 号 Page207-220 (2002. 08)  
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2003040155>)

著者 西間 三馨 他

調査地域 福岡県福岡市

調査時期 1995 年

調査対象 小学 1 年生、中学 2 年生

依頼数 6~7 歳: 36 校 3,137 人、  
13~14 歳: 14 校 3,004 人

回収数 6~7 歳: 2,901 人 (91.4%、男子 1,464 人、女子 1,437 人)  
13~14 歳: 2,831 人 (94.2%、男子 1,452 人、女子 1,379 人)

有効回答数 —

診断方法 ISAAC とビデオによる調査 (ビデオ調査は中学生のみ)

有症率	6~7 歳、13~14 歳
喘鳴 (既往) :	33.7%、26.8%
喘鳴 (現症) :	17.3%、13.4%
1 年間の発作なし:	0.1%、5.2%
夜間睡眠障害 1 回/週以上:	1.2%、0.6%
会話困難な重症喘鳴:	1.8%、2.1%
医師の診断 (累積) :	18.2%、18.9%
運動時の喘鳴:	5.3%、27.3%
夜間の咳嗽:	9.5%、14.0%

調査概要 ISSAC により全世界で行われた第 I 相試験の日本のセンターの結果報告。6~7 歳では喘息 17.3%、アレルギー性鼻結膜炎 25.6%、アトピー性皮膚炎 21.3%、13~14 歳では各々、13.4%、41.0%、13.5%であった。